



かまくら認知症ネットワーク

題字 古川茂明

- 会報(隔月刊)5号
- 2012年7月1日発行
- 編集発行人
一般社団法人かまくら認知症ネットワーク
〒247-0056鎌倉市大船1-22-2-402号
- TEL0467-47-6685
- 郵便振替
00240-8-140587
- 編集責任者 稲田秀樹

認知症ケアでつながる人々 稲田秀樹

かまくら認知症ネットワーク代表理事
ケアサロンさくら 施設長

今泉台4丁目の住宅街のなかにある商店街には、車の通らないまっすぐな歩道が伸びている。その歩道の中央には花壇が据え付けられていて、季節季節にとりどりの花が咲いている。ケアサロンさくらの利用者である池田トミ子さん(86歳女性、アルツハイマー型認知症)は、朝、デイサービスにつくと商店街の花壇の花に水をあげるのが仕事になっている。「きれいに咲いてくれてありがとう」と声をかけながら水をやっている。その傍らで、向かいの八百屋さん(三富青果店)のご夫妻がやさしいまなざしで池田さんを見守ってくれている。



花壇に水をあげる池田さん

昭和40年代、「私たちが来た頃は閑古鳥が鳴いていてね」と三富青果店の奥さんが話してくれたことがある。今泉台の宅地が開発された間もない頃に店を構えたので、はじめは商店街を訪れる客も少なかったらしいが、住宅が増えるにつれ商店街はにぎわいをみせて、次第に人でごった返すようになったのだそうだ。当時の商店街は子供たちであふれ、どの店も行列ができるほどのにぎわいを見せたという。

昨年夏、その三富青果店の店先で、顔色優れない様子で座り込んでいたのが高橋幸子さん(86歳女性、アルツハイマー型認知症)だ。傍らにいた夫が「食事をしてくれないので困っている」と話してくれた。幸子さんは家に引きこもっていて外へ出たがらない人だった。その後、夫と商店街に買い物に出たついでにケアサロンさくらに立ち寄りてもらいながら利用へつなげていくことができた。今は幸子さんの体調もすっかり回復している。

デイサービスを開設するにあたり商店街に駐車場がないことが課題だったが、地域の助け合いの会である「今泉台すけっと会」の方のはからいで一人暮らしの高齢者の方のご自宅(門脇俊治さん宅)の空きガレージをお借りすることができた。ガレージを借りる契約を交わすとき、契約に同席された門脇俊治さんの娘さんが「どうぞよろしくおねがいます」と丁寧にお辞儀をされた。何か事情がありそうだった。以下は東京に住む娘さんから聞いた話である。門脇さんは極度の難聴で電話での会話ができなかった。補聴器を嫌い、電話をかけても出てくれないので安否確認はFAXに頼るしかなかった。安否が不明で困ることが多かったところへ貸しガレージの話が舞い込んできたという。



門脇俊治さん宅のガレージ

それなら「送迎車を出し入れする時に安否確認をしましょうか」とお話しした。高齢化率40%の地域だからこそ人々はつながりを求めている、とふと思った。

★認知症医学講座「認知症と薬」を9月12日(水)18:30~鎌倉市福祉センターにて、横浜市立大学付属精神医療センター部長の小田原俊成先生を講師にお招きして開催します。参加対象は介護の専門職、介護家族等となります。ただ今、講座に先立って事前アンケート(7月15日締め切り)実施中です。ご協力をお願いします!(研修部会)

~次号予告~

- ☆センター方式基礎研修
認知症ケアの基本と本人本位の実践の方法を学ぶ研修会レポート!
- ☆認知症相談事業の報告
鎌倉市との協働事業(認知症相談事業)の報告会レポートです!
- ☆地域の動き、認知症と薬アンケートより

7月・8月の予定

7月14日(土)	認知症相談	鎌倉市役所
7月22日(日)	センター方式基礎研修	NPOセンター鎌倉
7月24日(水)	運営会議	NPOセンター鎌倉
7月27日(金)	理事会	事務所
8月9日(木)	認知症サポ伝え方勉強会	NPOセンター鎌倉
8月11日(土)	認知症相談	鎌倉市役所
8月17日(水)	運営会議	NPOセンター鎌倉

★会報発行にあたり題字を当会会員で若年性認知症の古川さんのご子息(知的障害のある茂明君)にお願いしました。また、毎月イベントの写真はケアマネジャーの出口慎一氏より提供頂いています。(稲田)

鎌倉市との協働事業

認知症相談事業(予約制)

専門職の有資格者が症状の背景や介護の仕方についてわかりやすく説明!

…かまくら認知症ネットワークが相談員を派遣しています…

7月14日(土)
鎌倉市役所
13:30~16:30

8月11日(土)
鎌倉市役所
13:30~16:30

お問合せ・お申し込み:鎌倉市役所 市民健康課
でんわ 0467-23-3000 内線 2678(受付8:30~17:15)

入会ご希望の方へ

FAXで入会申込書希望と書いてお送り下さい

~資料をお送りいたします~

FAX 0467-39-5490

一般社団法人 かまくら認知症ネットワーク 事務局
[問合せ先 TEL 0467-47-6685]

会員種別 年会費

1. 個人正会員 3000円
 2. 個人賛助会員 2000円(一口以上)
 3. 団体賛助会員 2000円(一口以上)
- ※申込書送付後、年会費をお振り込みください。
郵便振込口座 00240-8-140587
口座名 一般社団法人 かまくら認知症ネットワーク



うす曇りの天気の中、中学生高校生も参加して第7回「かまくら散歩」が実施されました!

6月2日、認知症の本人、家族、介護の専門職、市民、鎌倉学園インターアクト同好会の中学生高校生らが参加して「鎌倉散歩」が実施されました。

鎌倉駅西口の時計台の公園に集合した参加者は、それぞれに語らいながら御成通り、六地藏前、和田塚駅前を歩きました。由比ガ浜に着くと(財)神奈川美化財団より提供されたトンゴとゴミ袋を手に持ち、それぞれ海岸に散って、浜辺に落ちているゴミを集めるボランティアを行いました。

海や空を眺めたり、うす曇りの初夏の潮風を心地よく浴びながら海岸清掃をした後は、国道134号線を渡って海浜公園へ移動し、そこで一人ずつ自己

紹介、初めて会った鎌倉学園の生徒さんたちと交流を深めることが出来ました。若年性認知症の奥さまと参加した白鳥哲夫さんは、「家内が鎌倉駅西口から海岸までの道のりをしっかり自力で歩いてくれたことが大変嬉しかった。途中でサポータの学生さんらの協力を得てほんとうに助かった」と話されました。またアルツハイマー型認知症の当事者の秋本宏さんからは、「まだまだ生徒さん達に伝えたいことがある、また会いましょうと言いたい」とコメントをいただきました。その他、初めて参加した方からも「楽しかった」「また参加したい」等の声を聞くことができました。(IN) ※写真提供出口慎一氏



「かまくら散歩に参加して」 鎌倉学園インターアクト同好会 越智隆太(高校2年)

以前、私は「認知症」というものに、漠然とした“恐れ”のような感情を抱いていました。しかし、「認知症サポータ養成講座」や今回の「かまくら散歩」を経験した私は、そのような考えを改めました。これらのイベントを通じて、私は次のようなことを感じました。認知症は病気ではあるが、その患者さんはきちんと病気と向きあって生きようとしている、家族もその人を温かく支えているのだと。由比ヶ浜へ歩いていくときも、海岸清掃をしているときも、みなさんはいつも笑顔でした。



そして「かまくら散歩」の交流会の中で認知症を患っている方がおっしゃった言葉は、今でも印象深く私の心に残っています。「私も、いつかはもっと症状が重くなって、今のよう話すことはできなくなるだろう。でも、それでも、私は“じぶん”を社会のために役立てたいのです」

本来なら、“じぶん”が“じぶん”でなくなってしまうことは受け入れがたく、目をそむけてしまいたくなります。ところが、その方は病を受け入れながら、なおかつ社会に貢献しようとしていました。そのとき私は、認知症という病気をただ切なく思うだけでなく、温かく前向きな気持ちで受け止めることができました。

認知症には、いまだ特効薬がありません。だからこそ、この病いに対する一人ひとりの意識によって「病気」とらえ方は大きく変わるのだと思います。私たちは“認知症”への正しい認識をしなければいけないと思いました。

「一般社団法人 かまくら認知症ネットワーク 平成24年度 定期総会」

5月13日(日)、鎌倉市福祉センターで定期総会が行われました。はじめに来賓として神奈川県鎌倉保健福祉事務所保健予防課長の井上郁子様より応援のお言葉を頂きました。



平成24年度定期総会の様子

定期総会には、正会員である認知症のご本人もご自身の意思で参加されました。報告事項として、平成23年度事業報告の説明が代表理事よりありました。昨年9月1日に設立後、半年を経ずして、会員数が100名を超えたことが報告されました。その他、認知症相談事業、かまくら散歩、研修、広報等の各事業について報告がありました。

平成24年度事業計画の説明では、認知症相談を市役所で行うようになること、かまくら散歩を年4回実施としたこと、専門職対象の認知症研修を拡充したことについて説明がありました。また今年度より「まちづくり部会」が創設され、地域の小グループを対象に地域密着型の認知症講座を展開する計画についても説明がありました。認知症になっても安心して暮らせるまちづくりを進めるうえで、一歩一歩を大事にしながら進む事が必要と感じました。

最後に、新理事として淡中京子さん、新監事として齋藤眞子さんが満場一致で選出されました。

代表理事	稲田 秀樹	(デイサービス管理者)
理事	萩原 栄枝	(デイサービス相談員)
理事	亀井よね子	(グループホーム管理者)
理事	栗原 大輔	(医師)
理事	白鳥 哲夫	(介護家族)
理事	淡中 京子	(民生委員)
監事	渡邊 武二	(市民)
監事	齋藤 眞子	(民生委員)

その後、休憩を挟んで「認知症になっても大丈夫なまちづくりを考えよう」というテーマでグループワークが行われました。グループの中には認知症のご本人もおり、当事者の立場から率直に意見を言われる姿がありました。認知症の当事者の視点や、当事者の思いを聞かせていただく良い機会となりました。

グループワーク終了後には懇親会が行われ、認知症当事者の方や地域住民の方、専門分野の方々が分け隔てなく談笑するなど、みなさんととても前向きで楽しそうな様子でした。平成24年度定期総会に関連する催しは、和やかな雰囲気の中に終わることができました。(NS)



当事者が参加したグループワーク



小グループ地域密着型認知症サポーター養成講座の開催に向けて 「認知症伝え方勉強会」がスタートしました♪

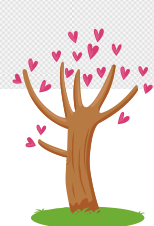
かまくら認知症ネットワークでは今年度、一人でも多くの方々に認知症を正しく理解してもらうために、町のコンビニや商店、一般家庭など、少人数のグループを対象に、ニーズのあるところに私たちの方から出向いて講座(認知症サポーター養成講座)を開催します。

講座を開催するにあたり、いかに市民の方々にわかりやすく、そして魅力的な講座とするかについて共に学ぶための「認知症伝え方勉強会」(全3回)を実施しています。今回はその様子をお伝えします。

1日目の勉強会では、かまくら認知症ネットワークの運営スタッフら13人に集まってもらいました。勉強会には講座で講師を務めてみたい人だけでなく、講座に興味がある人にも参加を呼びかけました。参加13人中、キャラバンメイトの研修を受講している人は7人で、そのうち講師経験のない人が多くいました。

初日の講義では経験のある講師2名が『デモンストレーション講義』を行いました。参加者はいずれは自分が話す側に回ることを意識してしっかりメモを取っていました。デモ講義では図解資料で認知症についてわかりやすく説明したり、認知症の人への「良い対応と悪い対応」を寸劇で紹介したり、Q&A形式の質問を交えたりと楽しく学べる工夫がされていました。

2日目は、受講者がペアになり、Q&Aや寸劇を演じながら講座を展開してみる内容で行いました。聞いているのとやってみるとでは大違いで、緊張からテキストを持つ手が震えたり、寸劇のセリフがでてこない一幕もありましたが、みな感心したり笑ったりしながら「楽しく」学びを深めていきました。最終回となる3日目には講座の開催予定のある2組が実践的なデモンストレーションを披露することになっています。最終回を見学希望の方は、かまくら認知症ネットワーク事務局まで、電話かFAXでご連絡ください (IN)



地域の動き 「かまくらりんどうの会 サポート会」 鎌倉市福祉センター 鎌倉市

6月5日(火)、鎌倉市福祉センターにて、認知症を支える家族の会「かまくらりんどうの会」のサポート会に参加させていただきました。サポート会は、認知症介護をしていて困ったときなど、初心者では気づかない対応の仕方や施設の利用などについて、当事者同士で助言し支え合う集いです。

この日は20名近い参加者のみなさんが順に介護中の家族の様子などについて話していきました。サポート会ではベテランの介護経験者から、介護の知恵や体験にもとづいた助言が聞けるので参考になり、リピーターが多いのが特徴です。お抹茶のサービスをしているボランティアの方もいて、はじめての方に

も親切です。会員でなくても参加できます。

ある会員の方は、「施設に入所している重度認知症の家族の元気な頃を思うと、状態のあまりの違いにむなしさを覚える」と話されました。またある参加者の方は、「医師から認知症といわれたものの疑問が残り、更に精密な検査を受けるかどうか悩んでいる」と話されました。

サポート会は毎月第1火曜日の午後1時から鎌倉市福祉センターの福祉団体活動室で行われています。ご相談、お問い合わせは、<りんどうテレホン 第1第3土曜日13時~16時 0467-23-7830>までお気軽に。(IN)



地域の動き 「若年期認知症の本人・家族の集い」 神奈川県立保健福祉大学 横須賀市

6月23日(土)横須賀市で開催された「若年期認知症の集い」に参加してきました。この集いは認知症の人と家族の会・神奈川県支部が後援し、地元の有志が昨年度から試行的に開催していたものです。今回で通算4回目になるそうです。

当日は50~60歳代の家族及び本人の約20名の参加があり、行政などの関係者も交えて総勢約30名の集いとなりました。集いは家族の部と本人の部に分かれて行われました。家族の部では若年期の認知症の方の課題といわれる、利用できる介護施設がないこと、家族の働き手を失うことによる経済問題、子育て問題、就労問題などが話し合われました。高齢期の認知症の

場合とは当事者の悩みの内容が異なっています。参加者はお昼休憩もそこそこに、予定を30分以上もオーバーして熱気のこもった話し合いが行われました。

認知症の人と家族の会、神奈川県支部からは、7月発行予定の「若年期認知症ハンドブック」についてや、このような会に継続的に参加することの意義・必要性について説明がありました。初参加の人からは「この集いでは、体験者の生の情報を得ることができ、大変有意義」と感想が語られました。鎌倉で若年期の認知症の妻を介護する自分の立場から、本人を伴って遠出する難しさも感じている方が多いと思われ、身近な場所でこのような会があると良いと思いました。(TS)



地域の動き かまくら市民活動の日フェスティバル 鎌倉生涯学習センター(きらら鎌倉) 鎌倉市

5月19日(土)20日(日)、鎌倉生涯学習センターにおいて、「暮らしやすい街づくりをめざして」というテーマで、特非NPO鎌倉市市民活動センター登録の69団体が参加し、活動内容を紹介したパネル展示と説明やデモンストレーション、販売等が行われました。

かまくら認知症ネットワークでは「かまくら散歩」のパネルの展示を行い、当会の案内パンフレットや会報、認知症啓発のための冊子を配布、必要に応じて説明を行いました。

2日目には地下ギャラリーのオープンスペースで、稲田代表による認知症周知啓発のための「認知症ミニ

講座」と「かまくら散歩の活動報告」が、分かり易い解説と大画面のスライド付きで紹介されました。

フェスティバル終了直前の時間帯でありましたが、活動紹介が始まると瞬く間に満席となり、10名ほどの方が立席となりました。NPOセンター鎌倉の担当者の方は、「認知症は身近な問題なので、こんなに盛況だったのではないかと話してくれました。

フェスティバルは市民の関心も高く、様々な活動を展開されている団体同士の交流の場にもなっていました。(KT)

